項目	特記事項
2節　表面処理	
14　14.2.1　［付加］ ステンレスの表面仕上げ	b.汚れ防止処置 1)外気に接する部分以外の部分は、次による。 ・施さない ※次の処置を施す ・不動態化処理(バフ仕上げ、鏡面仕上げを除く) ・耐汚染性ガラス質系クリヤーコーティング　1μm程度　原則として原板処理 ・シリコーンアクリル樹脂又は無機質系クリヤー塗料で試験吹き等事前に検証を行い、耐久性・密着性に優れていることを確認したもの。 工場塗装（焼付又は強制乾燥）塗膜厚15μm以上 ※汚れ防止材（ステンレスオイル）
⑮　14.2.3　［付加］ 鉄鋼の亜鉛めっき	a.溶融亜鉛めっき鋼材の加工後の切断、孔あけは行わない。万一あと加工が必要な場合の処置は、監督職員の指示による。
4節　軽量鉄骨天井下地	
⑯　14.4.1　置換 適用範囲	a.この節は、システム天井以外の屋内及び屋外の軽量鉄骨天井下地に適用する。
⑰　14.4.2　［(b)置換］ 材料	a.野縁等の種類は、次による。 ※設計図による。設計図に記載のない場合、屋内は標仕[表14.4.1]による19型、屋外は14.4.6による。 ［付加］c.アルミスパンドレル・パネル等の金属製天井材の締結材は、ステンレス製(@200㎜以内)又は同等の耐食性を有するものとする。金属製重量天井の場合は、ステンレスボルトを用い、嫌気性接着剤等による緩み止め処置を施す。なお、緩み止めにダブルナット工法を採用する場合は、下ナット逆転法（困難な場合は上ナット正転法）により確実な施工を行う。
⑱　14.4.4　［(g)置換］ 工法	a.下がり壁･折上げ天井等、天井に段違いがある場合は、野縁受と同材又はL-30×30×3(㎜)程度以上の部材で、間隔900㎜程度に補強用振れ止め(耐震ブレース)を設けて補強し、下地を一体化する。段違いが300㎜を超える場合は、次による。 1)段違いが300㎜を超え、600㎜以下の場合 ⊙上記による ・鉛直面を壁として扱い、設計図による。 ・設計図による 2)段違いが600㎜を超える場合 ※鉛直面を壁として扱い、設計図による。 ・設計図による ［追補］b.天井のふところが1.5m以上の場合は、　[−38×12×1.2(㎜)以上を用いて、吊りボルトの水平補強・斜め補強を行うこととし、補強方法は次による。なお、天井のふところが3mを超える場合は、設計図による。 1)水平補強は、縦横方向に間隔1.8m程度に配置する。 2)斜め補強は、相対する斜め材を1組とし、縦横方向に間隔3.6m程度に配置する。
⑲　14.4.5 耐震性能	
⑳　14.4.6　追補 屋外天井	a.本項は軒天井等屋外の天井に適用し、14.4.1～5に付加又は優先する。 b.耐風圧性能 1)設計用風圧力に対して、各部材に発生する応力を短期許容応力以下とし、仕上げ材の変形・脱落や主要部材に有害な残留変形が生じないものとする。 c.設計用風圧力 ※設計用風圧力は、「工事概要書2-2 3)」による。ただし最小値は、±2,000Paとする ・(　　)Pa(対象部位：　　)

項目	特記事項
	d.材料は、次による。(単位㎜) 種類 ／ ※一般部 ／ ・ ／ 備考 シングル野縁 ／ 25×25×0.7以上 ダブル野縁 ／ 50×25×0.7以上 野縁受 ／ 40×20×1.6以上 野縁受ハンガー ／ 厚さ2.3以上 ／ ボルト固定・閉鎖型を原則とする 野縁クリップ ／ 厚さ2.0程度 ／ ボルト固定型等 吊りボルト ／ 1/2"(12φ) 水平つなぎ材 ブレース材 ／ [−40×20×1.6以上 ／ 天井ふところが1.0m以上 耐震ブレース ／ [−40×20×1.6以上 e.工法 1)野縁の間隔は、300㎜以内かつ耐風圧性能を確保できるものとする。 2)風圧力による吊りボルトの座屈止めとして、剛性の大きいアングル・パイプ等の補強材をバランス良く設置する。 3)天井ふところが1.0m以上の場合は、縦横間隔1.8m程度で均等に水平つなぎ材を設ける。
5節　軽量鉄骨壁下地	
㉑　14.5.3　［付加］ 形式及び寸法	a.設計図に記載のない場合、軽量鉄骨壁下地を用いた間仕切壁は、壁張りボードを含めスラブ下端又は梁下端まで立ち上げる。 ［付加］b.EPS・PS・機械室等の軽量鉄骨壁下地を用いた間仕切壁の下部は、次による。 ※鉄筋コンクリート立上りを設ける(H=100　　)　・設計図による
㉒　14.5.4　［付加］ 工法	a.軽量鉄骨壁下地の取付けは、変位吸収工法とし、地震や強風による層間変形時の破損や異音発生を防止するための対策を施す。また、天井材や壁仕上材が外装部材の変形の影響を受けないように縁切りを行い、熱伸縮・層間変形・風圧力等による異音の発生を抑える工法とする。 ［付加］c.耐火間仕切壁及び遮音間仕切壁の上部の床スラブが床型枠用鋼製デッキプレートの場合は、間仕切壁部分のデッキプレートのリブを切断して設置するなど、所定の性能を確保できる工法とする。
㉓　14.5.5　追補 下地補強	a.軽量鉄骨壁下地による間仕切壁に、手すり・衛生陶器・カウンター等を取り付ける場合及び鏡、ボックス、棚等の荷重がかかる造作を行う場合は、合板又は鋼板、鋼材等により下地補強を行う。補強の耐震要求性能は「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」により、仕様は設計図による。
7節　アルミニウム製笠木	
㉔　14.7.1　置換 適用範囲	a.この節は、建築物の屋上パラペット等に使用するオーブン形式及び板材折り曲げ形のアルミニウム製笠木に適用する。
㉕　14.7.3　付加 工法	a.板材折り曲げ形の笠木の接続目地は、ダブルシーリングとし、排水機能を備える。 b.板材折り曲げ形の笠木が外壁と取り合う部分は、笠木端部を立ち上げてシーリングを行う。 c.笠木及びその固定部は、外壁・窓ガラスのメンテナンス一般手法(ブランコ方式)による荷重に対して破損、有害な変形が生じない強度とする。 d.「工事概要書 2-2 構造設計条件」 による積雪荷重、風圧力に対して塑性変形、脱落、飛散しない固定方法とする。
8節　手すり及びタラップ	
㉖　14.8.2　［付加］ 手すり	a.材料の種別は、設計図による。ただし、屋外に設置する鋼製手すりは、溶融亜鉛めっきとする。 b.墜落防止手すりは、次表の荷重に対して安全であること。 荷重　N/m ／ 適用箇所 3000 2000 ／ 吹き抜け、踊場、テラス廻り 1500 1000 ／ 上記以外
9節　その他　追補	
㉗　14.9.1 金網類	a.外部(外壁・屋根・デッキ床)、ピット(下部に湧水等がある場合)のエキスパンションジョイント金物の取付け下地は、次による。 ・鋼製溶融亜鉛めっき　　※ステンレス製
㉘　14.9.3　［付加］ その他の金属材料	a.屋上、塔屋周りの目隠しルーバー用ストリンガー及び取付け金物と取付けボルトは、次により、ビスは使用しない。風圧力に起因する振動・挙動による脱落を防止するための緩み防止措置を行う。 ・スチール溶融亜鉛めっき　　※ステンレス製 ［付加］b.屋外及び土間となる床下、暗きょ、トレンチ等高湿条件となる部位での取付け金物及び建築設備機器に使用する材料は、ステンレス製又は溶融亜鉛めっきを施した鋼材とし、電気めっきは使用しない。 ［付加］c.壁面・建具面等からの出寸法が（※150㎜　・　　）を超える、金属製のひさし・フィン・水切り等の水平部材は、雨滴音対策として次の対策を施す。 ※上面板厚　（※2㎜以上　・　　） ・緩衝材　（塗布吹付け制振材3㎜以上又は成形制振材張付け）
㉙　14.9.4　［付加］ アルミニウムスタッドボルト	a.本項は、CDスタッド溶接システムによりアルミニウム板に溶接するアルミニウムスタッドボルト及び同アルミニウムスタッドボルトを用いたパネルに適用する。 b.基本要求品質 1)スタッドボルトの溶植部は、欠損がなく、応力の集中が起こらない品質を確保する。 c.材料 1)アルミニウムスタッドボルトは、CDスタッド溶接システム専用品で、M6以上とする。 2)アルミニウムスタッドボルトは、製造後使用開始まで密封された状態の製品を使用する。開封後は2日以内に使用し、1回の作業後次の作業までの間は、再度密封状態として保管する。 3)面板となるアルミニウム板は、スタッドボルトの溶接性についてあらかじめ確認されたものとする。面板の厚さは次による。 ※4㎜　⊙設計図による 4)パネルの面板をスタッドボルトで固定する裏面フレームは、アルミニウム押出し形材又はアルミニウム板材曲げ加工とする。

項目	特記事項
	d.許容耐力 1)スタッドボルト1本当たりの引張・せん断許容耐力は、次のうちそれぞれ最小の値とし、溶接時に面板に生ずる歪に配慮するとともに、所定の外力により面板に有害な変形歪が発生しないものとして設定する。 ①スタッドボルト谷径での引張強度（材料規格値）/5 ②（強度試験結果の平均値−3σ）/3　　(N=10以上) ③パネル製造者の基準値 上記は短期許容耐力とし、長期許容耐力は、それぞれ上記の1/1.5とする。 2)上記強度試験は、本製作と同仕様・同作業条件により作成した供試体とし、材質･板厚・表面処理等、関係する材料の仕様が異なる場合は、すべての組合せについて実施する。また、試験において溶接部破断となった供試体があった場合も、これを含めて評価を行うものとする。 e.スタッドボルトの配置とパネルの構造 1)スタッドボルトは、裏面フレームでの固定間隔250㎜以下を原則とし、所定の外力に対して必要本数以上を配置する。 2)自重支持点以外は、スタッドボルトにせん断力を負担させない納まりとし、パネル全体において、熱伸縮に対する固定点と可動点を明確にして配置する。熱伸縮可動点は、スムーズな追従が可能な構成とし、可動点における裏面フレームの固定用穴は、挙動方向に必要な隙間が確保できるルーズホールとする。 3)層間変形等の面内変形を受けるパネルでは、裏面フレームにて十分な剛性を確保したうえでスウェー方式又はロッキング方式により追従させるものとし、層間変形時にスタッドボルトにせん断力を負担させない構造とする。 4)面板の自重をスタッドボルトのみで支持する形式の壁パネルでは、自重支持点を熱伸縮固定点付近に、風圧力支持用とは別に設けることを原則とする。自重支持部分の裏面フレームと面板間は、アクリル系構造用接合テープ張りを併用する。ただし接合テープの強度は、強度計算には算入しない。 5)スタッドボルトに接するナット、ワッシャーはアルミニウム製とする。やむを得ずステンレス製とする場合は、異種金属腐食防止処理を行ったうえ、ルーズホール等に雨水、結露水等が滞留しないよう、適切な対策を講ずる。 f.製作 1)溶接作業は、温湿度条件の安定した屋内作業場にて行う。 2)アルミニウムスタッドボルトの溶接は、CDスタッド溶接システムにより、アルミニウムスタッドボルト専用ガンを用い、アースを適切に配置する。 3)スタッドボルトの溶接部は、溶接によるバリ・スパッタ等を取り除き、熱伸縮等の挙動の妨げとならないようにする。 4)ナットは、座金を用い面板にガタが生じない程度の締付けにとどめる。スタッドボルト溶接部に過度の引張力を導入しないよう、適切に管理する。ナットボルト間には、専用の嫌気性接着剤等による緩み止め処置を施す。 5)屋外に面するパネルでは、スタッドボルト溶接部及びナット接触部に水の浸入又は結露水の滞留等がないよう、必要な止水処置を行う。 6)スタッドボルトを施工するための機器類は、機器製造者の仕様に則り定期的にメンテナンスを行ったものとする。また、その証明書を施工計画書に添付する。 g.溶接条件の確認 1)スタッドボルト溶接作業毎日の作業開始に先立ち、充電電圧・ギャップ等溶接条件の確認を行う。同仕様のアルミニウム板に試験溶接を行い、試験体数10以上をハンマー打込み・ペンチ曲げ等により、全溶接部からの破断がない状態であることを確認する。簡易引張試験による場合も同様とする。作業者が交代した場合、パネルの材料・板厚等仕様が異なる場合、作業場の温湿度条件が大きく変化した場合等、作業条件が変化した場合は、そのつど確認試験を行う。 2)溶接条件の確認において、許容耐力確認試験における充電電圧より低く設定することは、原則として不可とする。やむを得ず低い電圧に設定する必要がある場合は、再度許容耐力の確認試験を実施する。 h.製品の管理 1)スタッドボルトの溶接状態の確認は、目視及び指触により、全数実施する。 2)パネルの製品検査記録は、製品の寸法確認等の一般的な検査記録のほか、スタッドボルトの溶接作業日・溶接条件・材料ロット・溶接作業者名等を記録し、全数作成する。
左官工事	
①　モルタル塗り	既製目地材　⊙適用する（形状：※図示　・　　）　(15.2.2) 床の目地　⊙設置する（工法：※15.2.5(b)(3)による・　　）　(15.2.5) 外壁タイル張り下地等の均しモルタルの接着力試験　※行う・行わない　(15.2.5)
②　床コンクリート直均し仕上げ	塗物，敷物，張物等の下地への適用　⊗行う　(15.3.1)
3　セルフレベリング材塗り	(15.4.2)(15.4.3)(表15.4.1) 種類 ／ 厚さ(㎜) ／ 施工箇所 ・せっこう系 ・セメント系 ／ ※10　・
④　仕上塗材仕上げ	薄付け仕上塗材　(15.5.2)(表15.5.1) 呼び名 ／ 仕上げの形状 ／ 工法 ／ 備考 ・外装薄塗材Si ／ ・砂壁状 ・ゆず肌状 ／ 吹付け ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ・可とう形外装薄塗材Si ／ ・砂壁状 ・ゆず肌状 ／ 吹付け ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ・外装薄塗材E ／ ・砂壁状 ・ゆず肌状 ／ 吹付け ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ・着色骨材砂壁状 ／ ・吹付け ・こて塗り ・可とう形外装薄塗材E ／ ・砂壁状 ・ゆず肌状 ／ 吹付け ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ・防水形外装薄塗材E ／ ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ／ 増塗材 ・凹凸状 ／ 吹付け ／ ・適用する ・外装薄塗材S ／ ・砂壁状 ／ 吹付け ・内装薄塗材C ／ ・凹凸状 ／ 吹付け ／ 吸放湿性 ・内装薄塗材L ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ／ ・適用する ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ／ 耐湿性(内装薄塗材W) ・内装薄塗材Si ／ ・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状 ／ 吹付け ／ ・適用する ・内装薄塗材E ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ゆず肌状 ・さざ波状 ／ ローラー ・内装薄塗材W ／ ・京壁状じゅらく ・ゆず肌状 ／ 吹付け ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り

項目	特記事項
	厚付け仕上塗材 呼び名 ／ 仕上げの形状 ／ 工法 ／ 備考 ・外装厚塗材C ／ ・吹放し ・凹部処理 ／ 吹付け ／ セメントスタッコ以外の上塗材 ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ひき起こし ・かき落とし ・外装厚塗材Si ／ ・吹放し ・凹部処理 ／ 吹付け ／ 上塗材 ・外装厚塗材E ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ ・吹付け ・こて塗り ／ ・適用する ・ひき起こし ・内装厚塗材C ／ ・吹放し ・凹部処理 ／ 吹付け ／ 吸放湿性 ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ／ ・適用する ・ひき起こし ・かき落とし ・内装厚塗材L ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ひき起こし ・かき落とし ・内装厚塗材G ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ こて塗り ・ひき起こし ・かき落とし ・内装厚塗材Si ／ ・吹放し ・凹部処理 ／ 吹付け ・内装厚塗材E ／ ・平たん状 ・凹凸状 ／ ・吹付け ・こて塗り ・ひき起こし 複層仕上塗材 呼び名 ／ 仕上げの形状 ／ 工法 ／ 備考 ・複層塗材CE ／ ⊙ゆず肌状 ／ ローラー ／ 耐候性 ・複層塗材Si ／ 吹付け ／ ※耐候形３種 ⊙複層塗材E ／ ・凹部処理 ・凹凸模様 ／ 吹付け ／ ・ ・複層塗材RE ／ 上塗材の種類(表15.5.2) ・可とう形複層塗材CE ／ ・ゆず肌状 ／ ローラー ／ ※水系アクリルつやあり ・凹部処理 ・凹凸模様 ／ 吹付け ／ ・ ・防水形複層塗材CE ／ ・ゆず肌状 ／ ローラー ／ 増塗材 ・防水形複層塗材E ／ ・適用する ・防水形複層塗材RE ／ ・凹部処理 ・凹凸模様 ／ 吹付け ・防水形複層塗材RS 軽量骨材仕上塗材 呼び名 ／ 仕上げの形状 ／ 工法 ／ 備考 ・吹付用軽量塗材 ／ ・砂壁状 ／ 吹付け ・こて塗用軽量塗材 ／ ・平たん状 ／ こて塗り 内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15.5.2) ※F☆☆☆☆．またはそれと同等と認められるもの 防火材料の指定　※なし　・あり（※図示　・　　）　(15.5.2) 見本塗　※行う　・行わない　(15.1.3)(15.5.3) ＡＬＣパネルの内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　(15.5.4)
5　マスチック塗材塗り	種別　・Ａ種　・Ｂ種　(15.6.2)(表15.6.1) 仕上材塗り　ＥＰ−Ｇ（・Ａ種　※Ｂ種）
⑥　ロックウール吹付け	(15.8.2)(15.8.3) 種類 ／ 色彩 ／ 厚さ(㎜) ⊙一般用 ／ ・着色 ⊙原色 ／ ・10 ・15 ・20 ・図示 ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　(15.8.2) ※F☆☆☆☆．またはそれと同等と認められるもの
1節　一般事項	
⑦　15.1.2　［付加］ 基本要求品質	a.非構造部材における耐震要求性能は「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」による。
⑧　15.1.3　［付加］ 見本	a.仕上塗材等は、必要に応じて、工程・工法・性能・配色・つや・仕上げ程度等を検討するために、監督職員の指示により現場で試し塗りを行う。試し塗りは、原則として実際の施工条件で行うものとする。
⑨　15.1.5　［付加］ ひび割れ防止	a.コンクリート床版下面等に直塗りする場合は、ポリマーセメントモルタル薄塗り工法とする。
⑩　15.2.5　［付加］ 工法	a.室内の柱型及び壁の見え掛り出隅の面取り幅(角度45°) ⊙見付け(　20㎜)　・面取りなし ・FL+200からCH-200まで
建具工事	
①　アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等　(16.2.2)(表14.2.1)(表16.2.1) 種別 ／ 耐風圧性 ／ 気密性 ／ 水密性 ／ 枠の見込み ／ 備考 ・Ａ種 ／ ※Ｓ−４ ・ ／ ※Ａ−３ ／ ※Ｗ−４ ／ ※図示 ※Ｂ種 ／ ※Ｓ−５ ・ ／ ・ ／ ・ ／ ・ ⊙Ｃ種 ／ ※Ｓ−６ ・ ／ ※Ａ−４ ・ ／ ※Ｗ−５ ・ ／ ※図示 ・ ・防音ドアセット，防音サッシの遮音性の等級　・T-1　・T-2　・T-3　・T-4　(16.2.2) ・断熱ドアセット，断熱サッシの断熱性の等級　・H-1　・H-2　・H-3　・H-4　・H-5 ・耐震ドアセットの面内変形追随性の等級　・D-1　・D-2　・D-3 外部に面する建具の表面処理　(16.2.4)(表14.2.1) ※Ｂ−１種 ⊙Ｂ−２種　（・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー） 屋内に使用する建具の表面処理　(16.2.4)(表14.2.1) ※Ｃ−１種 ・Ｃ−２種　（・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー） 製作所　評価名簿による 結露水の処理法方　※図示 水切り板，ぜん板　※図示
2　樹脂製建具	(16.3.2)(表16.3.1) 種別 ／ 耐風圧性 ／ 気密性 ／ 水密性 ／ 枠の見込み ／ 備考 ・Ａ種 ／ ※Ｓ−４ ・ ／ ※Ａ−４ ・ ／ ※Ｗ−４ ・ ／ ※図示 ・ ・Ｂ種 ／ ※Ｓ−５ ・ ・Ｃ種 ／ ※Ｓ−６ ・ ／ ※Ｗ−５ ・ ／ ※図示 ・ ・防音ドアセット，防音サッシの遮音性の等級　・T-1　・T-2　(16.3.2)(表16.3.2) ・断熱ドアセット，断熱サッシの断熱性の等級　・H-4　・H-5　(16.3.2)(表16.3.3)

着工	平成 28年 6月 25日		
竣工	令和 元年 11月 30日		
監理		監理　日建・上田特定監理業務等共同企業体	
施工		施工　大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体	

完成図　意-10

日建・上田特定設計委託業務共同企業体

高知市都市建設部公共建築課					
担当	担当	係長	課長補佐	副参事	課長

高知市新庁舎建設工事

特記仕様書（6）

意　1－8

NO.　0−140004−B